

災害環境研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	大熊町など現地フィールドを対象とした研究や自治体との連携により、実装を意識した包括的な研究が展開されている。また、技術マニュアル作成や施策立案支援、演習プログラム等を通じ、実装支援や現場対応力向上への貢献が認められる。	プロジェクト連携等によって重点的に取り組んできた大熊町を対象とした取り組みについて高く評価いただき有難うございます。
	木質系災害廃棄物処理と CO ₂ 削減を結びつけた研究や広域水害時の流木対策など、災害対応に有用な知見が得られている。	広域水害時の木質系災害廃棄物の処理に係る取組を中心として、本プログラムの取り組みについて高く評価いただき有難うございます。
	住民生活や地域復興にどのような具体的変化をもたらしているのか、また焼却処理や中間貯蔵県外処分等に関する社会的受容性・実施可能性をどのように検討しているか。	ご指摘の点につきましては、まさにこれからある程度時間をかけながら取組の効果として把握していくべき課題と認識しております。また、県外最終処分の技術的な観点から、環境省が適切な判断を下すための有用な科学的知見を提供出来るよう、引き続き研究を進めていく所存です。
	災害時の家屋廃材が中心の燃焼物の場合、別途入手する樹皮を混合して焼却することは非現実的に思え、研究の意図が良く理解できなかった。	バイオマスガス化発電では、通常、樹皮ではなく木部を原料とします。福島県内で樹皮を利用できる燃焼発電施設は飯舘村のみで、多くの製材所やペレット・チップ工場では、震災当時の放射性物質問題の影響から、現在も樹皮が産廃処分されています。しかし、現在は放射性物質濃度が大きく低下し、利用可能な水準にあると考えられます。このため樹皮の燃料利用に着目し、約2年半前からガス化特性の研究を進めました。その結果、樹皮は従来原料と同等の熱量を持ち、クリンカ生成の抑制にも寄与する可能性が示されました。今後は実機での活用を進め、処分費削減による低コスト化を目指します。
今後への期待など	国内で想定される災害事例はいろいろと考えられるが、地域特性の違いを踏まえた災害環境研究の展開や、将来災害を想定した対策研	ご指摘の点は我々も非常に重要な課題と考えております。本課題に対してどのように研究を進めていくべきかについては、事前復

	究が課題と考えられる。	興の観点から地域における将来の災害への備えを考える際に、国内外のこれまでの様々な事例を参照しつつ、地域に依らない普遍性と地域の固有性についてまずは整理することから取り掛かりたいと思います。
	国土交通省等の関係省庁や国際機関（例：IIASA）との連携強化による研究成果の社会実装促進を期待する。	ご示唆いただいた点につきましては、関係する行政担当部署と連携して課題解決が図られるよう努めていく所存です。

災害環境研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	第5期を通じ、福島復興を中心に放射線リスク低減や復興シナリオ提示など、災害復興に資する基盤的成果が着実に創出され、「災害環境学」創成に向けた重要な知見が蓄積された点が高く評価される。	「災害環境学」の確立に向けた我々の取組を高く評価いただき誠に有難うございます。次期中長期において平時の取組の在り方について、これまでの蓄積も活かしつつ検討を進めていきたいと思います。
	「地域社会の災害レジリエンス向上」については、社会の制度や人々の認識と関心、国と地域の予算など様々な要素を揃えていく必要がある。	ご指摘の点は大いに同意するところであり、今後、災害レジリエンスに係る所内横断的な取組を進めていきたいと思います。
今後への期待など	地域に入って検討することは重要だが、同時にそれを普遍化することも重要である。日本への注目がある課題でもあり、今後の広がりを期待したい。	本プログラムで得られた知見を含めた先進事例を集約し、体系化を図ることで普遍化に取り組み、少しでもご期待に沿えるよう努めます。
	今後、所内外の関連技術や知見も活用し、様々な災害や事故に伴う、より最適な対応に資する幅広い観点からの研究の推進を期待する。	災害環境学の確立を目指した取組を含め本プログラムの取組や成果について評価いただき有難うございます。ご期待に沿えるよう、災害と環境に係る研究の取組を今後も進めてまいります。
	災害環境学は近年の防災と環境の融合の中で埋もれず、リーダーシップを発揮していただきたい。	ご期待に沿えるよう、災害と環境に係る研究について主導的に取り組めるよう努めてまいります。